

研究・調査報告書

報告書番号	担当
60	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Excess Incidence of Squamous Cell Esophageal Cancer among US Black Men: Role of Social Class and Other Risk Factors 米国黒人男性における食道扁平上皮癌の過剰罹患：社会階級とその他の危険因子の役割	
執筆者	
Linda Morris Brown, Robert Hoover, Debra Silverman et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
American Journal of Epidemiology, 2001;153:114-22	
キーワード	
飲酒、症例-対照研究、食事、食道癌、危険因子、社会階級、タバコ	
要 旨	
<p>(目的) 黒人と白人を含む地域住民の症例-対照研究によって、社会階級と食道扁平上皮癌との関連が見られている。米国の黒人は白人よりもアルコール、タバコの消費が多く、果物や野菜の摂取は少なく、収入が少ないことが影響していると考えられる。そこで、米国で白人男性と比較し黒人男性における食道扁平上皮癌の過剰罹患に影響する社会階級とその他の危険因子について検討した。</p> <p>(方法) 米国の3つの地域 (アトランタ・ジョージア、デトロイト・ミシガン、ニュージャージー) から食道扁平上皮癌の347症例 (白人119名、黒人228名) および対照の1354例 (白人743名、黒人611名) を選んだ。症例は1986年から1989年までの間、病理学的に確かな食道癌の診断を受けた30-79歳の対象地域住民とした。</p> <p>(結果) 年収25000ドル以上の対象に対する年収10000ドル以下の対象の、年齢・地域・飲酒有無・喫煙年・果物や野菜の摂取状況を調整したodds比は白人で4.3 (95%信頼区間2.1-8.7)、黒人で8.0 (95%信頼区間4.3-15.0) であった。4大危険因子 (低収入、中～多量飲酒、喫煙、果物や野菜の低摂取) は白人でも黒人でも食道上皮癌に影響していた。黒人男性では過剰死亡の99%にこの4大危険因子が関与していた。</p> <p>(結論) 白人、黒人ともに低収入、中～多量飲酒、喫煙、果物や野菜の低摂取はこの集団で食道上皮癌の要因として影響していた。白人と同じ危険因子でありながら黒人で高い罹患状況が見られることは、人種的な遺伝子の差あるいは低社会階級に関連する栄養や生活などの要因によるものの影響が考えられた。生活習慣の是正、特にアルコール飲酒や喫煙を少なくさせることは黒人や白人ともに食道上皮癌を著しく低下させるであろう。さらに食道上皮癌罹患の人種間の格差も狭まるであろうと考えられた。</p>	